

「人」と「人」が交わるフリーマガジン

KRPPRESS 5

2012
vol.124
MAY



有限会社京都情報化支援事務所
取締役所長 福竹 康志 氏



株式会社イー・エージェンシー
代表取締役 甲斐 真樹 氏



MAP ENGINEERING 株式会社
代表取締役 安倍 統 氏



株式会社フューチャースピリッツ
代表取締役 谷孝 大 氏

KRPから世界へ!

地区の支援機関のメニューも充実し、
加速するKRP入居企業の
海外拠点展開をレポート!



株式会社メディアワークス
(左) 代表取締役 三上 出 氏 代表取締役社長 今井 寿人 氏

KRPから世界へ。グローバルな夢に向かって個性派IT企業が中国・東南アジアへ進出。

中国はもちろん台湾・フィリピン・タイ・ベトナムなど、グローバル経済において存在感と重要度を高めてきたアジア諸国を中心に、日本企業の海外進出が加速しています。

厳しい経済情勢のなか、これらの国への進出は困難やリスクも伴う反面、大きな夢をはらんでいることも事実。KRPの入居企業のなかにも業種や規模にとらわれないことなく、果敢に進出しようとするケースが増えてきました。同じ東洋とはいえ言語・文化・生活習慣はもちろん、ビジネススタイルまで多くの「壁」が存在する国々。現地で事業スタートする際に必要なことは何か？ 拠点の構築や事業継続の秘訣とは？

紹介するIT企業5社は、同じ事業分野とはいえ内容はさまざま。日本で培ったノウハウを基に、ユニークな専門性と機動力、さらには「人間力」を駆使して海外進出を果たし、自社の「夢」に向かって事業展開を行っている気鋭の企業です。



株式会社 メディアウォーズ [代表取締役社長 今井 寿人 氏・代表取締役 三上 出 氏] フィリピン初のWebショッピングモールを開設。

1996年に京都で民間初のインターネット接続業者として設立し、16年にわたって信頼と実績を重ねてきた(株)メディアウォーズは、海外事業の第一弾としてフィリピンに進出。2008年に現地法人を設立し、今年4月にフィリピンで初めてのネット・ショッピングモールをスタートさせた。目下3000店を擁し、代表取締役社長の今井寿人氏は「将来的には上場」との目標を掲げる。

10年近く前から利用者にネットワークやWEB環境で貸し出すホスティング事業に重点を移し、3万件を顧客としており、海外進出を視野にフィリピンでのシステム開発事業に携わる中で、現地エンジニアの技術水準の高さと英語力に着目。大阪の制作会社と合弁会社を設立し、広告・SNS・物流など各分野の有力企業から出資を募る形で、ショッピングモールを立ち上げた。人口約9,400万人の5%を占めるという富裕層をターゲットに、テレビCMに国民的アイドルを起用するなどパワフルな営業活動を展開している。現地の社員数は現在120人。

韓国や中国に比べて日本企業のフィリピン進出はまだまだまだ少なく、いわば「未開の地」。「生活習慣など戸惑う点はありませんが、親日的だし料理もおいしい。進出しない手はない」と、代表取締役の三上出氏は強調する。ネットショッピング事業と並行して、現地の労働スタイルを活用した2交代制によるホームページ制作事業も行い、企業としての地盤固めを図っている。



三上氏(左)と今井氏。いずれも通訳不要の英語力の持ち主。



株式会社 イー・エージェンシー [代表取締役 甲斐 真樹 氏] 上海・インドネシアへと拠点を広げて市場に先手。

デジタルマーケティング、Eコマースの構築、レコメンドエンジンシステムなどのASP/SaaSの分野で事業展開する(株)イー・エージェンシーは、創業10年目の2008年に上海に進出。「上海易愛网络技术有限公司(e-Agency China)」を設立し、主に日系企業を取引先としてWebソリューション事業を行っている。

当時の中国はネット事業の創成期で需要はあるもののビジネス展開がむずかしく、撤退するIT企業が続出していた。そうした時期に、あえて進出した同社は、日系のカメラ・自動車メーカーのウェブサイト制作から徐々に基盤を築いていった。「現地法人のリアルで細かなニーズに対応できたことが事業継続の要因」と、代表取締役の甲斐真樹氏は振り返る。組織で動く大手企業とは異なる、ベンチャーならではの強みがあったという。現在、社員は日本人の6人を含む35人となり、さらなる事業の拡大を目指している。

広告・マーケティングという業種の関係もあり、同社の目

線は常に市場動向をとらえている。今年1月にはインドネシアに新たな拠点を設けた。「資本力がない分、先手を打つことが肝心」と甲斐氏。約2億4000万人の人口と豊富な資源を有し、上海の大手日系企業が相次いで進出している成長有望な市場に、いち早く布石を打って出たのだ。短期ではなく長期を、また中国だけでなくアジア全体を視野に入れて、今後の成長発展を構想している。



関西ベンチャーならではの組織にとらわれないスタイルは海外進出では強み。世界に通用するのでは、と甲斐氏。



株式会社 フューチャースピリッツ [代表取締役 谷孝 大 氏] ホスティングで日系企業の中国進出を後方支援。

サーバーのホスティング事業から、パートナー企業や関連会社との協業によるASP・SaaS事業へ展開を広げる(株)フューチャースピリッツは、創業以来15年間で培ったノウハウを基に、2年前に中国に進出。上海のBohanIT社と業務提携し、中国市場へ進出する日系企業を対象にホスティングサービスを行っている。

インターネットがビジネスのインフラとなった現在、中国での事業展開においても高品質で安定したサーバー環境は必要不可欠。ところが日本にサーバーを置いた場合には接続遅延やパケットロスの発生や、中国国内でウェブサイトを公開するには「登録」が義務づけられている上、中国企業によるホスティングサービスでは品質や言葉の問題で十分な対応が望めない。同社は、こうしたさまざまな問題に日本語できめ細かく対応し、サーバーの運用・監視サービスを提供、日系企業の中国進出をこれまで日本で培った技術とノウハウで後押ししているのだ。「特殊な事情のために日本の優れたコンテンツや売れる商品が進出できないのはもったいない。

しっかりサポートしていきたい」と代表取締役の谷孝大氏は語る。最近では日本の地方自治体の外郭団体の依頼で、現地法人が中国で集客するための観光サイト開設に携わった。

昨年末には一人当たりGDPが高く、中間所得層の消費が力強いマレーシアへ進出。オンラインゲーム事業を展開する現地企業と合弁会社を設立し、ゲーム用サーバー事業を開始。今後は、ゲーム運営以外の日系企業や現地企業向けにもレンタルサーバーサービスを始める予定。



日本経済は東南アジア圏で拡大していると見るべき、と谷氏。長期的にはアメリカも視野に。



有限会社 京都情報化支援事務所 [取締役所長 福竹 康志 氏]

児童相談のシステム支援で台湾に進出。

児童相談所に向けた業務システムのパッケージを開発し、その販売・運用を中心業務とする京都情報化支援事務所は、昨年より台湾の高雄市に進出、1年以内に本格業務をスタートさせるべく基盤づくりに努めている。

子どものためのNPO活動や児童虐待の現状を知り、この事業に至った取締役所長の福竹康志氏は「経済発展の裏には必ず負の産物として社会問題が発生する。その分野で社会に役立つ仕事があったら」と話す。事務手続きに忙殺されるケースワーカーの日常をシステム開発・運用を介して効率化し、子どもたちのケアに集中しやすい環境づくりを、との事業の意義は認められ、2008年京都府中小企業「知恵の経営」実践モデル企業に認定。児童虐待などの相談件数が増加するなか、当事業へのニーズは高く、いくつかの自治体で同社のシステムが導入されている。視点は当然ながら多くの社会問題を抱える経済大国・中国へ。

スタッフの事前視察など検討を進めるうち、昨年末にKRPで開かれた「日台ビジネス合同会議in京都」における台湾要人との

出会いが直接のきっかけとなり、台湾への進出を決意。台北に次ぐ第二の都市、高雄市に単身乗り込んで会社設立のための準備を進めている。親日的な国民性に加えて、投資協定が整備されているなどビジネス誘致に熱心な点がありたいと福竹氏。業務のかたわら北京語はもちろん台湾の歴史や文化を猛勉強。将来的に中国へ進出するためにも、文化的に近い台湾での経験やルートが大いに役立つ、と見ている。



1カ月に一度日本に帰れるかどうかという状態に「まるで単身赴任」と苦笑する福竹氏。



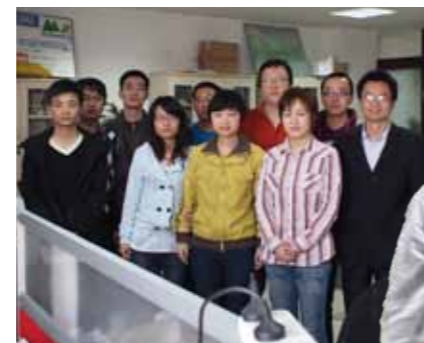
MAP ENGINEERING 株式会社 [代表取締役 安倍 統 氏]

成長が期待される中国・西安でさらに飛躍を。

工場機械の制御プログラムの開発やソリューション・サービスを行うMAP ENGINEERING株式会社は、2005年から中国・西安で事業を展開。西安ソフトウェアパークに事務所を設け、技術者10人を含む12人の社員が常駐、日系企業を対象に工場向け自動化のソフト開発や液晶関連装置の設計・製作を手掛けている。7年目を迎えた今、通訳なしでの交渉にも慣れ、中国国内での新たな受注件数も増えてきた。

また、2010年には高新技術企業に選ばれた。当初は上海でのグローバルな展開を目指していたが、コスト面の折り合いがつかずに断念。西安進出のきっかけは、西安高新区管理委員会の投資説明会の担当者とお会いしたこと。いろいろと便宜を図ってもらい、会社設立後の通訳や求人活動なども大いに助けてもらったという。「怖いもの知らずで人脈なしのまま出てきたので…本当に感謝しています」と、代表取締役の安倍統氏は当時を振り返る。

中国内陸の経済特区に認定されている西安では、この3年で消費力が約60%も伸びていて、まだまだ魅力的な市場が広がっている。日本とは違った形態や方法にトライできる楽しみがあると、安倍氏は今後の事業展開に期待をかける。将来的にはソフト開発の拠点としての西安のほか、情報発信・収集のために上海にも拠点を、と夢を膨らませている。



在住7年、西安は京都に似ていて好きだという安倍氏。内陸に進出する企業をサポートしていきたいとも。



公益財団法人 京都産業21 岸田常務理事、三田参与に聴く

巨大市場へと変貌する中国・上海にさらなる拠点がオープン。支援体制を拡充して京都企業の海外進出をバックアップ。

「京都産業21」は、KRPに拠点を置く公的産業支援機関の一つ。創業から経営・技術革新、人材育成、市場開拓など、京都の中小企業の多様なニーズにこたえて支援を行っている。なかでも中国をはじめとする海外進出へのサポートは、国内産業活性化のために、いま重要な課題。2010年10月に中国・上海市にコンサルティングや情報提供の拠点「京都産業21上海代表処（京都府上海ビジネスセンター）」を開設したほか、相談窓口として「京都府海外ビジネスサポートセンター」を設けた。この6月には上海マートに海外で初めて京都府の工業製品や伝統工芸品、物産品を常設展示する施設「日本京都館（仮称）」をオープンさせる。

同公財団への海外ビジネスの相談は月に平均50～60件に上り、高い関心をうかがわせる。常務理事の岸田吉弘氏は、マスコミ報道や口コミによる失敗例のイメージもあるが「商習慣の違いなど現地ビジネスの基本を押さえておけば問題は少なく、失敗例はそれほど多くない」と積極的な進出を勧める。常設展示場「日本京都館」も、当初予定枠の60社に対して出店予定は47社（4/26現在）。ショールームだけでなく販路開拓のための恒常的な商談の場でもある



(公財) 京都産業21の常務理事の岸田吉弘氏(左)と参与・三田康明氏(右)

ため、より多くの企業参加が望まれる。「世界の工場」から「巨大なマーケット」へと変貌しつつある中国は、プラスアルファの事業チャンスがある、と岸田氏。

また同公財団参与の三田康明氏は「関連する企業同士が数社まとまって仕事を受ける態勢も必要」と助言する。現地ニーズには1社単独では対応しきれないケースが多く、部品からエンジニアリング、管理運営に至るまでワンストップで対応できる複数企業による事業活動が得策という。いわゆる「トータル・ソリューション・パッケージ」の形。さらに京都だけでなく近隣府県も含めた「広域連合」による取り組みも進行中とのこと。そうした際の情報ツールとして、海外進出企業の情報を一冊にまとめたガイドブック「京都府中小企業海外進出企業案内」を作成した。業種別に各企業の取扱製品や設備などが一目で把握できるため、現地でのオープン・イノベーションマッチングなどの情報源として好評を得ている。



京都府中小企業海外進出企業案内

京都企業の海外進出が図られる一方、逆に海外から京都へ進出してくる傾向も見られる。要求意識の高い日本の消費者をターゲットとして販売戦略を検証しようとしているのでは、と三田氏。また大学のまちでもある京都の研究拠点としての価値にも注目するほか、老舗企業に事業継承の極意を学ぼうとする姿勢も見られるという。

「ベンチャー精神にあふれる京都企業にとって、海外や異業種との交流は“お家芸”のようなもの。KRPのメリットを生かして産学公・産々連携など多様なWin-Winの協働を図っていくべきでは」と提言する。岸田氏も「市場となりつつある中国へ進出することは事業の拡大につながり、国内拠点の空洞化にはならない。成功の要因は、スピードと信頼できる事業パートナーでしょう」と重ねた。

第7回ASPALeadersミーティング参加レポート サイエンスパーク間の連携を通じた海外展開支援

アジアサイエンスパーク協会（ASPAA）はアジアの13カ国89のサイエンスパークが参加する国際NGO組織であり、地域間の連携を目指した様々な活動を展開しています。KRPは設立時から理事メンバーとして参画しています。

今回、アジア地域のリーダーによるサイエンスパークのあり様の議論と国際商談会を行なう第7回ASPALeadersミーティングが4月24日に韓国済州島で開催。この商談会に、3号館に同居しているワイエム



システムズ（株）代表取締役社長の池田豊氏が参加されました。池田氏にとってASPAAの国際商談会は3回目の参加となります。

商談会は各企業のプレゼンと企業同士による面談の2本立て。池田氏がプレゼンのトップを切り、20分間に亘って新開発の毛髪混入検査装置を紹介されました。この装置は食品や化粧品製造で問題と

なる毛髪の混入を検査するためのもので、従来では難しかった茶色や白色の髪も検出可能。その後、韓国企業4社と個別面談を行ない、自社の技術のPRと将来の業務提携につながる案件探索を行なわれました。



ワイエムシステムズ（株）代表取締役社長 池田氏

【池田社長コメント】

これからは日本だけでなく、海外との取引も増やしていく必要があります。その中で今回のように海外の企業と現地で直接商談をできる機会を与えていただき、大変嬉しく思っています。

ASPAAは今後も海外での商談会を計画しています。このような商談会に興味をお持ちの方は是非、京都リサーチパーク（株）総合企画部（075-315-8288）までご連絡ください。

アイシス・イノベーションが日本初 進出拠点をKRP「VIO」にオープン!

オックスフォード大学アイシス・イノベーション
日本事務所設立記念レセプション
日時: 2012年3月23日(金) 10:30~12:00
会場: KRP1号館2階サイエンスセンタークラブ
主催: アイシス・イノベーション



名門オックスフォード大学の知的財産・技術移転会社アイシス・イノベーションが、 KRP「VIO」に日本初の事務所を開設。新たな研究開発・産業発展の拠点に。

オックスフォード大学の100%出資による知的財産・技術移転会社「アイシス・イノベーション(以下アイシス)」の日本事務所が、KRPのVIO(ベンチャー・インキュベーション・オフィス)にオープン。設立を祝うレセプションに、大学や関西の主要企業、研究機関などから知財関係者およそ40人が集まった。レセプションは、アイシス日本代表で日英ビジネスに多大の貢献をされてきた^{あいば}饗庭賢治氏によって進行し、アイシス・アジア代表のデイビッド・バグハースト氏が、日本における初進出の



(左) 饗庭氏 (右) バグハースト氏

拠点にKRPを選んだ理由についてスピーチされた。その理由として、この15年にわたって関西企業や京都大学との良好な協力関係があったこと、関西地区では提供した技術やサービスが送り

出せる市場環境が整っていることなどを挙げられ、今後もこうした関係を継続できることに心から感謝していると挨拶。出席者を代表して京都大学副理事で産官学連携本部長の牧野圭祐氏が、京都大学がリアルな国際ネットワークを必要としている今、本事務所の開設は非常にタイムリーであると強調、オックスフォード大学という強力なバックグラウンドをもつアイシスと、今までなかった技術開発ができることに大きな期待を寄せていると述べた。饗庭氏の音頭による乾杯の後、ビュッフェ形式の和やかな雰囲気の中で歓談の輪がいくつも広がり、出席者同士が大学・企業などの枠を超えて交流する有意義な場となった。



モノづくりとデザイン戦略

日時: 2012年3月22日(木)
第一部14:30~16:00 / ものづくりのターニングポイント、日本の企業が歩む道とは。「ソーシャルデザイン」という美学 ムラタ・チアキ氏
第二部16:10~17:50 / 「デザインを活用した、これからの経営とマネジメント」名見耶 秀美氏
会場: KRP1号館4階サイエンスホール



これからは「広義のデザイン」の時代、 プロデュース能力と価値の創造が必要。

社会貢献というモノづくりの分野を創出するムラタ氏と、メッセージのある商品をコラボ制作する名見耶氏が、多くの成功事例に基づいて「21世紀に勝ち残るデザイン戦略」を熱く語った。

2012年の「KRPデザインフォーラム」は、(株) ハーズ実験デザイン研究所/METAPHYS代表取締役のムラタ・チアキ氏とアッシュコンCEPT代表取締役の名見耶秀美氏による講演を2部構成で開催。企業関係者や芸術系大学の学生ら約100



ムラタ・チアキ氏

人が聴き入った。第一部のムラタ氏は、現代はデザインが広義に解釈され、いろいろな領域でデザイン的な発想が取り入れられており、デザイナーには先見性や人材活用などプロデューサーとしての能力が求められていると指摘。異業種連携によってソーシャルデザインを



名見耶 秀美氏

目指す「METAPHYS」の数多くのプロジェクトを紹介しながら、新たな市場を求め企業への一つの回答として、世界中で約40億人といわれる貧困層を対象としたBOPデザインを提案した。第二部では名見耶氏が、デザインの力で会社が活性化することを自らの経験談を交えながら話し、これからは価値を創造するトータルなプロセスをデザインする時代であると指摘。21世紀は技術や品質よりも創造型の経営が中心になると主張した。またデザインにはチームワークや他者への思いやりが必要で、デザイナーとのコラボレーション・ブランド「+d」の個性あふれる商品群を紹介しながら「21世紀は愛のある企業が残る」と結んだ。数多くの成功事例を踏まえたお二人のデザイン論には説得力があり、1階レストラン「PATIO」で開かれた交流会でもプロジェクトや商品について参加者から熱心な質問が続けられた。

NEWCOMER

新しい入居企業様の紹介

ISIS オックスフォード大学 アイシス・イノベーション 日本事務所

ASTEM 7F

英国オックスフォード大学100%出資の知的財産・技術移転会社であり、オックスフォード大学のみならず、英国をはじめ世界各国の政府、企業及び大学に対して技術移転のコンサルティング、研修プログラム、アドバイザリーサービスを提供しており、今回、日本に初進出致しました。

オックスフォード大学 アイシス・イノベーション 日本事務所 ●TEL/075-315-8560 ●FAX/075-315-8560
●URL/http://www.isis-innovation.com/about/AboutIsisJapanese.html ●MAIL/Kenji.Aiba@isis.ox.ac.uk



日本代表 饗庭 賢治氏

高砂電気工業株式会社 京都出張所

KRP4号館3F

高砂電気工業は、流体制御に欠かせないバルブ、ポンプといったコンポーネントをお客様のご要望に合わせてカスタマイズすることを得意としております。医療診断、理化学、環境分析、工業用印刷、燃料電池などさまざまな分野で採用されております。

高砂電気工業株式会社 ●TEL/090-6588-6049
浅井 直也 代表取締役社長 ●URL/http://www.takasago-elec.co.jp
伊藤 彰規 京都出張所長



極小型耐食電磁弁 FVシリーズ ペン型シリンジポンプ SBPシリーズ

東光ビジネス学院

KRP4号館5F

東光ビジネス学院は、自己分析・資格取得・就職活動指導を中心とした大学生対象の「内定支援」と、国からの委託事業である求職者支援を中心とした離職(転職)者対象の「職業訓練」に特化した学校です。「求めよ、さらば与えられん 尋ねよ、さらば見出さん 叩けよ、さらば開かれん」を学院のモットーとし、受講生の特質を個性として伸ばすとともに、現代社会で求められている職業能力を習得し、幅広い見識を持つ「ゼネラリスト」と確かな専門性を有する「スペシャリスト」を兼ね備えた社会人を輩出しています。

東光ビジネス学院 ●TEL/075-322-1620 ●FAX/075-322-1621
安田 建 学院長 ●URL/http://www.tkbc.ac.jp ●MAIL/info@tkbc.ac.jp

bounce 株式会社 バウンス

スタジオ棟1F

WEBの企画・制作・管理をはじめ、ショップデザインから販促まで幅広くデザインに関わる事業を展開しております。また今後は、アパレル分野において独自ブランドの企画から販売までを展開し、皆様に親しまれる企業でありたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

株式会社バウンス ●TEL/075-326-3250 ●FAX/075-326-3251
角井 健治 代表取締役 ●URL/http://www.bounce-co.jp ●MAIL/info@bounce-co.jp



もりうち としはる 4月2日付で森内 敏晴が代表取締役社長に就任いたしました。

KRPは1989年の開設以来、「産学公連携拠点」「新産業創出拠点」を目指した活動を展開しています。当地区の活動はご入居いただいている企業・機関の皆さまをはじめ、地域の産学公の方々のご支援・ご協力のもと行われております。その活動の成果の一つが、昨年の京都創造者大賞の「京都創造者賞企業部門」の受賞にもつながりました。今後も当地区が皆さまとともに成長できるよう、京都市サーチパーク株式会社の社長として、「集交創」の社是の実現を目指して、微力ながらも皆さまのお役に立つべく努力して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



京都市サーチパーク株式会社
代表取締役社長 森内 敏晴

略歴: 1981年大阪ガス(株)入社。北東部リビング営業部長を経て、京都市サーチパーク(株)代表取締役社長に就任。

京都大学 iPS細胞研究所の山中伸弥所長も快走!

京都市及び京都陸上競技協会が主催する「京都マラソン2012」が3月11日(日)に開催されました。「東日本大震災復興支援」と「京都・日本の活性化」をメインコンセプトに掲げ、ランナーがつけるゼッケンにも復興支援メッセージが印字されていました。会場の西京極総合運動公園をスタートし、平安神宮前でゴールする京都市内で開催される大規模な市民参加型マラソン大会。コースは山紫水明の京の自然を感じながら、7つの世界文化遺産など多くの観光名所を巡り、送り火の五山の全てを眺望できるなど、国際文化観光都市・京都の魅力を満喫できる。当日は青空のもと、1万4000人ももの出場者が参加しました。東日本大震災で亡くなられ

た方に黙祷を捧げた後、午前8時30分の号砲とともにスタートしました。その中にKRP地区とも縁のある京都大学 iPS細胞研究所の山中伸弥所長の姿も。応援大使として先頭でスタートを切った山中所長は、自己ベストを大幅に上回る4時間3分19秒という素晴らしいタイムでゴールされました。今回のマラソンでは、より多くの方々に「iPS細胞研究基金」を認知していただき、ご協力をお願いするという趣旨もあり、山中所長は温かい声援にも後押しされ、見事に完走されました。京都市を舞台に開催された今回の大会、市民の協力と理解のもと、京都の魅力を国内外に発信する楽しく有意義な大会となったのではないのでしょうか。



沿道からの応援に答える山中所長

喫煙コーナーがリニューアルしました。

平成24年4月より、KRP6号館3・4階、KRP8号館ラウンジに喫煙コーナーが設置されました。

※移設に伴い、従来のKRP6号館1階及び4階テラス、KRP8号館1階の喫煙コーナーは廃止となります。

地区内の屋外喫煙コーナーは、順次、屋内に設置・リニューアルの予定です。

ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。



●KRP6号館 喫煙コーナー



●KRP8号館 喫煙コーナー

京都リサーチパーク(株) オフィス移転のお知らせ

この度、弊社のオフィスをKRP地区内 ASTEM棟4階に移転いたしました。今後とも何卒倍旧のご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。

新住所 600-8813
京都市下京区中堂寺南町134 (ASTEM棟4階)
電話 075-322-7800 (代表)
FAX 075-322-5348

※但し、コンベンション部の住所に変更ございません。
600-8813
京都市下京区中堂寺南町134 (1号館2階)
電話 075-322-7888



編集後記 いつのまにか寒かった季節が終わり、あっという間に夏になったような今日この頃です。最近どうも四季の移り変わりが忙しくなくて、春・秋という日本らしい風情が失われていっているような気がしてなりません。これも地球温暖化のせいでしょうか。一方で太陽の活動が長期的に低下して寒冷化に向かうとの報道も最近ありました。気持ちの良い春と秋が少しでも永くなることを期待したいと思います。個人的には花粉症でない秋が最高なのですが…

配送・停止・変更のご希望は、右記内容を明記の上 press@krp.co.jp へ

配送	① 〒、住所	② 団体名	③ 部署名	④ お名前	⑤ TEL/FAX	⑥ メールアドレス	⑦ 「配送希望」 ※定期配送も可能です
停止	⑧ ご登録No.(封筒宛名ラベル右下)	⑨ 「配送停止希望」	変更	①～⑥のうち変更箇所と⑧のご登録No.			